

氏名（本籍）	亀山 純子
学位の種類	博士（ヒューマン・ケア科学）
学位記番号	博甲第 9974 号
学位授与年月	令和 3 年 3 月 25 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
審査研究科	人間総合科学研究科
学位論文題目	介護に従事する外国人の就労継続支援に関する研究

主査	筑波大学教授	医学博士	水上 勝義
副査	筑波大学准教授	医学博士	柳 久子
副査	筑波大学准教授	博士（保健学）	橋爪 祐美
副査	筑波大学講師	博士（医学）	堀内 明由美

論文の内容の要旨

亀山純子氏の博士學位論文は、外国人介護職者における就労継続に関する要因を検討し、就労継続につながる支援のあり方を提唱したものである。その要旨は以下のとおりである。

（目的）

著者は、今後介護分野はますます外国人労働力が必要になるが、2008年から2016年までに経済連携協定（EPA）に基づき入国した外国人介護職者2,777人のうち、介護施設への定着率は約14%に止まること、それにもかかわらず、外国人介護職者の心理的健康と就労意向の関連に焦点を当てた調査・報告は行われていないことなどの現状を指摘している。そこで本研究では、外国人介護職者における就労継続に関する心理面における要因を明らかにし、就労継続のための支援のあり方を見出すことを目的としている。本研究は3つの研究からなる。研究1では、外国人介護職者の就労継続意向とバーンアウトおよびコミュニケーション能力の関係性について、日本人介護職者との比較を通して検討している。研究2では、国家資格取得と就労継続の視点から、必要な教育支援に関するニーズと課題を検討している。そして研究3では、研究2で得られたニーズや課題と「就労継続意向」の関連について検討している。

（対象と方法）

著者は、研究1でEPAの外国人介護職者156人と日本人介護職者336人を対象に、バーンアウトやセルフ・モニタリングなどの尺度を用いてアンケート調査を実施している。研究2では、国家試験を受験し合格した外国人介護職者12人を対象に半構造化面接を実施し、グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いた分析を実施している。研究3では36の事業所に所属する外国人介護職者259人を対象に、さらに本研究2の結果に基づき作成した質問項目に、主観的幸福感とワーク・エンゲイジメント尺度を加えたアンケート調査を実施し、「就労継続意向」の関連要因について、パス解析を用いて分析している。

（結果と考察）

研究1の結果から、外国人介護職者は同年代の日本人介護職者に比べ、コミュニケーション能力に優れ、バーンアウト傾向が低い、長期就労意向は低いことを報告している。さらに外国人介護職者は国家資格を取得することにより就労意向が高くなることを報告した。この結果から著者は、国家資格を取得するための教育支援が就労継続意向に関連することを考察している。研究2の結果から、教育支援に関するニーズと課題のカテゴリとして2つの主要カテゴリ、10のカテゴリ、34のサブカテゴリを抽出した。著者は、カテゴリとして「介護に関わる日本語能力とコミュニケーション技術」、「勉強に困ったときの解決法」、「長期休暇希望と取得の間に生じる心理」、「職場の人間関係」、「勤務体制と勉強時間の設定」、「勤務に伴う疲労」、「介護場面における施設利用者への対応に係る困難」、「指導者の専門分野・指導方法」、「受きたい指導と施設の支援体制」、「国家試験のプレッシャー」を報告している。そして就労と学習両立に関わる多様なニーズへの対応を要することや現行の育成プログラムの改善が喫緊の課題であることを指摘している。研究3の結果から、「就労継続意向」に対し、「ウェル・ビーイング」、「ワーク・エンゲイジメント」、「腰痛対策指導への満足度」、「自己能力の有用感」の直接効果と、「良いケアを学んでいる感覚」や「良いケア実行可能感」などの間接効果を報告し、「就労継続意向」を高めるために、これらを考慮した教育的支援が重要であると指摘している。

(結論)

著者は、これら一連の研究から、外国人介護職者は長期就労意向が国家資格の取得に左右されること、国家資格の取得を促進するために、勉強時間の確保のみならず、良いケアを学べる場の提供、学習意欲を高める適切な指導などの教育的支援が重要であると結論づけている。

審査の結果の要旨

(批評)

今後益々の拡充が見込まれる外国人介護職者の安定した就労を推進することは、超高齢社会の日本にとって重要な課題である。著者は、外国人介護職者の就労継続意向が低いことに注目し、一連の研究を行い、外国人介護職者の就労継続意向改善に必要な教育支援のあり方を提唱する重要な結果を示した。このように本研究成果は、学術的のみならず社会的にも意義ある研究と評価できる。

令和3年1月6日、学位論文審査委員会において、審査委員全員出席のもと論文について説明を求め、関連事項について質疑応答を行い、最終試験を行った。その結果、審査委員全員が合格と判定した。

よって、著者は博士（ヒューマン・ケア科学）の学位を受けるのに十分な資格を有するものと認める。